

くすのきだより



令和5年3月1日
来迎寺小学校

校訓「なかよく がんばる やさしい子」で振り返りを

教頭 竹本 万里

私は歴史ある来迎寺小学校卒業生の一人です。二十歳の成人式の折り、久々に会った友人が、「来迎寺小学校の校訓『なかよく がんばる やさしい』は、とてもいい言葉だね」と言いました。小学校を卒業して何年も経っているのに校訓を覚えている理由は何だったのでしょうか。私なりに、「人となかよくすることで楽しくなった」「がんばることで自分が成長できた」「人にやさしくすることで嬉しくなった」そんな満足感や達成感を彼女がこれまでの人生で味わってきたのではないかと思います。

今年度、母校に赴任し、改めて教員として校訓と向き合ったとき、成人式での一コマを思い出しました。そこで、最高学年である6年生は日々の生活で校訓をどのように実現できているかを知るために、「なかよく」「がんばる」「やさしい」の各項目で、できたことを1つずつ答えてもらうアンケートを作成しました。以下がその結果です。

なかよく	いつ	放課(82%)、行事(13%)、授業中(2%)、その他(3%)
	どんなと	・放課での遊び、会話等 ・修学旅行や運動会等
がんばる	いつ	授業中(52%)、行事(39%)、放課(8%)、その他(1%)
	どんなと	・授業での発言、制作、運動等 ・運動会や陸上記録会(練習)マラソン大会等
やさしい	いつ	放課(50%)、授業中(28%)、行事(10%)、その他(12%)
	どんなと	・放課に同級生や低学年の子と一緒に遊んだこと、困っていたら助けてあげたこと等 ・授業で仲間に学習を教えたこと等



【校訓のかかれた銅像】

上記の結果から、放課に遊んだり運動したり、話したりしたときに「なかよくできた」と多くの児童が感じていました。また、授業中の発言や行事で「がんばることができた」という回答が多かったです。問題が解けたとき、自分の力が発揮できたときに満足感や達成感を味わえたと考えます。そして、放課でのふれあい、また、授業での関わり合いを通して「やさしくできた」という回答が多かったです。学校生活を一緒に過ごす中で、どの子も「なかよく」「がんばる」「やさしい」子に育っていることが分かってうれしく思いました。

最近、放課に4年児童が教務主任に算数を教えてもらっている姿を見ます。その児童の学級は、教務主任に書写を指導してもらっており、「算数の分からないところと一緒に勉強しようか」と声をかけられ、職員室に来るようになったそうです。何度か来室するうちに「分かる喜び」が高まり、目をきらきら輝かせて問題を解くようになりました。教務主任の姿にあるように、教職員一同で校訓の実現を目指して、全力で支援・指導していきます。

校訓「なかよく がんばる やさしい子」は、だれにでも分かりやすいシンプルな言葉です。家庭や地域の皆様にもこの校訓を一つの指針として、子どもたちが成長していくように支えていただけると幸いです。